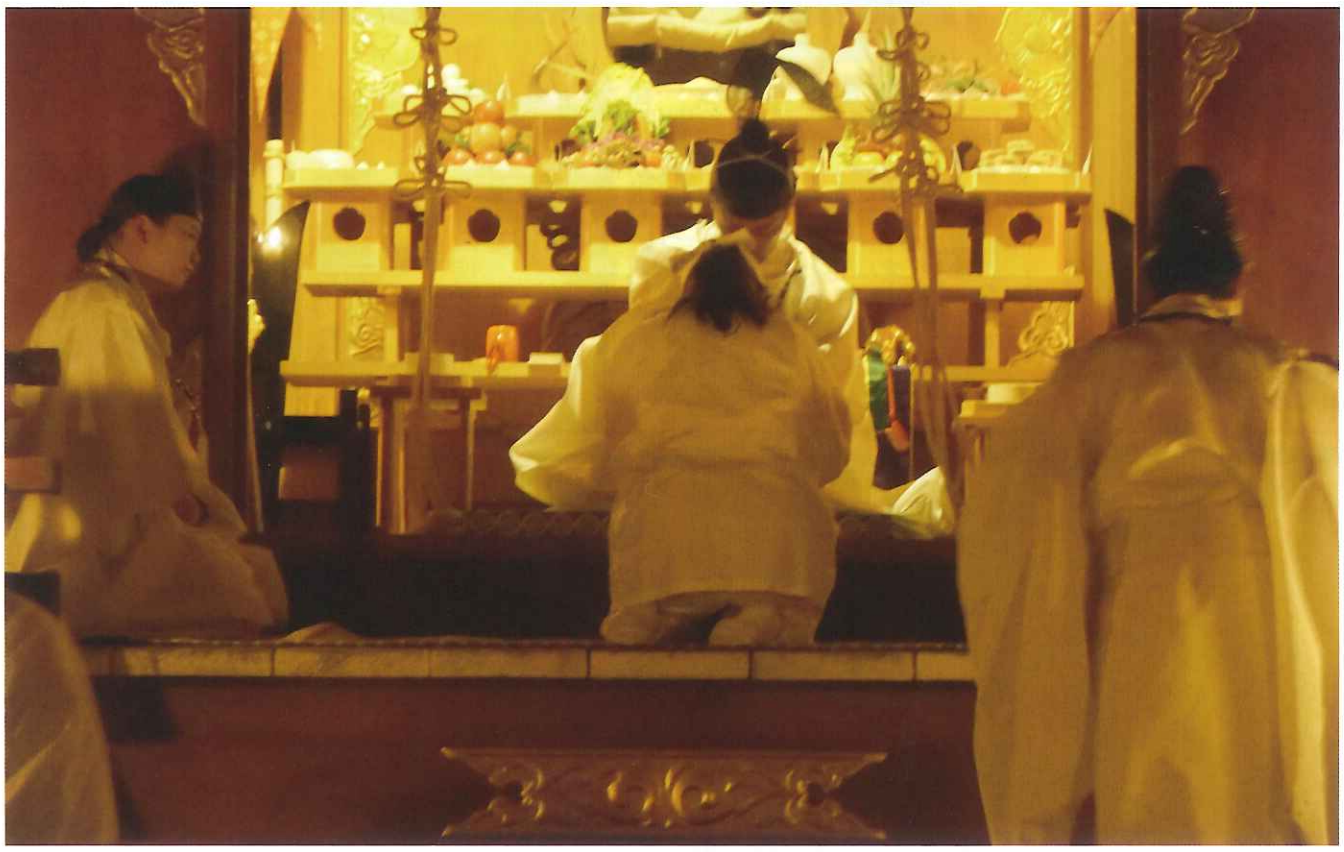
# 十一尊神十種御子拝戴
# 御魂結之神儀



九月一日を迎う。いよいよ本朝月始祭より一千日の謹行に入った。外出、外泊は余程の事でなければ厳禁となる。これも中々に難儀なことではあるが、御神命ともなれば詮なきことと覚悟すものである。九月の一ケ月にて謹行者数二八三名、教座会出席数三〇三名との報告を受けた。大和神道を深く理解、行ずるべくの道ではある。祭員奉仕の教職員の育成、信奉者の善導救済を要とはするが、どなたに対してもその門戸、窓口は開かれている。成満の折には五千名の信仰の縁者をもっての教座を開催致したいものと願っている。今からその目標を立てさせて頂いている。

私は一ケ月余の大國神社での謹行にて、奉職者である教職員が如何に杜撰極まりないかの姿を観るばかりであった。大神様は、「教主よ。これでよいのか。これが現状である。汝のこれまでの教育指導が少しも反映されていない者ばかりである。これ以上、我が教団を汚してはならじ。浄めよ。皆の姿を神明奉仕たるの姿に糺さねばない。おぞましき心、姿では信者にも申し訳の立たぬものであろう。ましてや、我が大和の神々にはである。統理以下全員の身と心を清め、神明奉仕の何たるかを今一度教え諭さねばない。それが為の謹行修行でもある。それをよくと心得るべし。」と申された。私がことあるごとに命じてきた『整理・整頓・清掃』『浄明正直』『報告・連絡・相談・確認』の奉務心得の欠落や不行届きを観知るばかりであった。何故に法を守れないのか。何故に行わぬのか。他宗教との人柄の縁に違いがあるのであろうか。これほどまでに尊き教えを反故にして、平気でいる教職員は異星人なのであろうかとも。愕然とするばかりである。三十年余かけても信仰者として異次元にあるを私は空恐ろしく観るばかりである。これまで、それが故に善導教化、布教の道が推進されなかったのであろう。私には正直『まさかこれほどまでに』と、思いもよらぬ世界であった。私の心には皆も頑張っているものと、教職員を信じたい、否、信じている自分があった。しかし、此度の日々の謹行にて大きくそれは裏切られる結果となった。本教団の立教六十一周年目に、正に還暦、甦りの年に遅きに失するも、その事実を気づかせて頂いた。

顧みれば、昭和六十二年より三年間、誠に厳しい「一年の御神託」においても御諭しが降された。私は教務総長として大神の御諭しを拝し奉りて、深き反省の下、教師の教育を図るべく教典、教行本、教化資料等を次々と整えながら、盛んに講習会を続けてきた。しかしながら、肝心の受講者たる教職員は、ただ受講していたに過ぎずを知り、改めての教育指導法を模索研究なしてきたのだが、求道者たる自ら道を求める者は誰一人としておらずの教団、本部職員であったようだ。裏を返せば、そのような人間としか縁のなかった教団であったということでもあろう。親の目からすれば、我が子統理、総監にても五十歩百歩ではある。我が大和の信仰の尊さ、素晴らしさ、その深きを自ら求めずの人間多しである。私がいくら教導なすも、やる気のないまま今日に至りしなのであろうか。教団運営の厳しきにも、教主の私が何とかするであろう位の全く危機感を持てぬ二人であった。情けなき子等である。親の心、子知らず。いや、伝えども伝えども、諭せども諭せどもであった。自分では怠けているとは思っていない。それはそうであろうが、肝心の根幹である宗教活動を展開実践しないのである。商売でいえば、殿様商売の如く手胡坐かいて人を待つごとなのである。殊に男性教師は然りである。震災前はいざ知らず、今はそれではやっていけぬ教団である。その危機感を持てぬのである。これだけの教団を若干名の教師で支えるは限度がある。これまでの負の財産や心根を、今、大きく転じ断つべく私も大鋭断をもって善導布教、善導救済に努めている。我が意に反する心無き職員の居場所は当然になくなるであろう。これまでの甘き考えの人間は自然淘汰されるは仕方のなきものとなろう。熱き心にての愛教精神に滾る教職員にての護持伸展を図らねばない。

**大神の恩頼の吾が命**
**世人の為に 捧げ尽くさん**

開祖様の遺訓ともなりし御心に副い奉る宗教活動を為さねばない。如くありなむの教職員足らしめねばない。我が身上の三度目の裸到来ではある。我が生命賭しての善導教化、善導救済の一千日謹行と為さねばない。教職員等も信仰信念の覚悟をもって共に歩んで頂きたいものである。

**尊きや 大和の教え身に修め**
**神明奉仕の道を 歩まん**
**美しき虹の架かりし奥都城を**
**拝み奉り心固めん**

（平成三十年九月十三日詠）

平成三十年十月十日
一千日謹行第四十日

教主

大和の光
11月号
《発行所》
大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話 (代)022-261-2525番
振替 仙台02220-3-45512
発行人 大和教団　定価50円

**神紋**
八咫鏡と太陽をかたどったもので、国家の隆昌と世界の共存共栄を意味しております。

**言霊**（ことたま）**言霊は光である。風、雨である。**
**大和**（たいわ）**の水、火である。**
**よく覚るべし。**
（大和神典 第五之三八六言）

# 十一尊神十種御子 御魂結之神儀

大和の神々に祈りを捧げられる統理様

十月五日から七日までの三日間に亘り、大國神社御本殿を斎場に本年十三年目を迎えた〝十一尊神十種御子御魂結之神儀〟が斎主統理様のもと三座斎行された。

御魂結之神儀とは大和の神々の神魂と教信奉者の吾魂を「魂乃緒結」によって結い固め、広大無辺の大神様の大神威を拝し奉り、十一年を一巡りとする『十一尊神御魂結』を修め十年一巡りの『十種御子御魂結』を以て、計二十一年を経て成満となる秘儀神業である。

白装束に身を包んだ参列者一同は、祈祷殿にて儀式の説明を受け、大鳥居前へと参集し、手水で手口を清め、修祓之儀にて心身を祓い清めた。

定刻の午後五時三十分、参進の合図が告げられると表参道の篝火が次々と点火され、参進太鼓と斎場で打ち鳴らされる銅鐸の音が共鳴する中、御本殿へと参進。やがて青白幕で囲われた御本殿内拝殿に入殿し、斎主統理様は東回廊よりご入殿された。

開祭詞、祈念拝の後、御扉が開扉され斎主統理様による秘神儀が厳かに執行された。

神拝詞に沿って祭儀は進められ、斎主統理様祝詞奏上の後、大祓詞を奉誦、引き続き、振魂神名奉称により神々をお称え申し上げ、天真名井によるお清めが執行された。

斎主玉串拝礼の後、平素は立ち入ることは許されない内陣浜床へと昇殿し、統理様より参列者一人ひとりに直々に神威神授之儀が執り行われた。

ご教導下される統理様

代表者による玉串拝礼を修め、参列者全員に神伝神授の尊き御神器が統理様より神授された。

結びに統理様より、「大和の神々の神魂と皆さんの吾魂をしっかりと結ばせて頂きました。神様を信じて、この御魂結之神儀の祈りを日々お仕えして、人を救い導く大きな力を頂いてください。皆さんも大和の心、大和の信仰を通して幸せの種をまいて頂きたいと思います。人を導く力を持って下さい。必ず実行して下さい。」とのご教導が述べられ、神儀は申し修められた。

儀式後、参集殿レストランにて直会が執り行われ、参列者は尊き御神縁に結ばれた喜びを共々に分かち合った。

なお、本年は御魂結二十一度位修理固成第一号として、永年に亘り教師として開祖様、教主様にお仕えなされ、齢八十八歳の今も現役で人々の善導救済をなされておられる仙台清水沼大國講長の八嶋はな子先生が目出度く二十一度位を修められた。本来は二十一年間に亘り毎年一度位を授けられるが、此度、大神様より特別に重ねてのお授けをお許し頂き成満となった。八嶋先生の益々のご活躍と健康長寿をお祈り申します。

大和の教信奉者は
五人善導の奉謝行を
実践致します。

大和立教六十一年
蘇えりの元年を迎えて
**大和の御教え天地に満つ**

御諭訓

信仰は
己れの生命を
蘇えらせ
永遠の栄えを齎らす
故に信仰は
人生のいとも
大切な仕事である

五大信条

和心
感謝
信念
努力
実行

大和聖業

一、私たち大和の教信徒は、祈りと感謝と奉仕の生活を励行し、人格形成に邁進致します。

一、私たち大和の教信徒は、誠の愛行をもちて、善導救済の深謝奉仕に邁進致します。

一、私たち大和の教信徒は、人類社会に貢献し、国家の隆昌と世界の共存共栄に邁進致します。

## 統理様ご動静

### 解脱会大祭参列

十月十三日、統理様は教主様名代として齋藤真由美教師と田中道敏教師を伴われて、埼玉県北本市の解脱会御霊地をご訪問、立教九十年・解脱金剛七十年祭・第一七三回秋季大祭にご参列なされた。

解脱会大祭にて祈りを捧げられる統理様

### 新日本宗教団体連合会 全国総会・理事会出席

公益財団法人新日本宗教団体連合会は十月十七日、十八日に亘り、熊本市内のホテルを会場として「平成三十年度新宗連全国総会」を開催、本教からは理事であられる統理様がご出席になられ、理事会においても積極的にご発言なされた。

新宗連理事会にてご発言なされる統理様

### 大本東京本部 開設五十周年記念 東京大本歌祭参列

十月八日、統理様は教主様名代として田中道敏教師を伴われて、東京都台東区の大本東京本部をご訪問、開設五十周年記念東京大本歌祭にご参列になられた。

### 皆様のおこころに感謝と御礼を申し上げます

#### 御奉納品奉納者

千島　國男
中村　德治

奉謝料随意
調味料
（十月十五日迄分・敬称略・順不同）

### 12月行事予定表

12月1日　月始祈願祭
12月5日　神光龍神祭
12月9日　開祖様御生誕祭
12月11日　親神感謝祭・祖霊万霊祭
御神具御清御取替神事
12月15日　月次祭・祖霊祭・地蔵尊霊祭
12月22日　冬至星祭
12月25日　開祖祭
12月28日　大祓・古神札焼納祭
御神具御清・御取替神事
六根修養会
12月30日　みそぎ祈願行（～31日）
12月31日　五段大祓之神儀・大祓

惟神道統百二十二年
大和宏教六十一年
笑顔のこぼれる家庭をつくりましょう
大和の祈り天地に満つ

# 悩める人をお救いするために
# 教主様壱千日・壱千座の謹行並
# 千五百座の教座・善導救済の奉謝行

10月の月始祈願祭並謹行第31日目をお仕えなされる教主様

社日参謹行並びに壱千五百座の教座会、人生相談における五千人の善導救済の奉謝行に御入行になられている。

儀式は先ず、修祓の後、斎主教主様により祝詞が奏上され、次いで、火祭祈祷が執行された。

引き続き、鎮魂祈祷、浄霊祭、御霊鎮魂祈祷が順に修められ、降霊之儀の後、教主様による霊魂安鎮秘神事が執行された。

斎主玉串拝礼の後、参列者代表玉串拝礼、昇霊之儀、金幣神授之儀を以て修祭となった。

次に教主様より、「私達、教師は信者さんにとっては親でございます。親である以上、子供の面倒を見るのは当たり前のことです。常に子供を気に掛け、小さな問題が大きな問題とならぬように解決して上げることが大切なのです。信者さんの心の中に〝大和〟という温かい国を造って上げることです。」との御親教を賜り、儀式は結ばれた。

連日、楽しく学ぶ教座会が開かれている

## 始行　平成30年9月1日
## 成満　平成33年5月27日

十月一日午前五時大國神社祈祷殿において、斎主教主様のもと、第二期となる、大物生大神御神像・財宝守護御神印授与奉告祭、並教主様壱千日謹行第三十一日目と併せて月始祈願祭が執り行われた。

教主様は本年九月一日より、幼き子供の生命をいじめや虐待から救済し、また悩める人々の全てをお救いなされるために、壱千日の大國神社祈祷殿にて、斎主教主様のもと、第二期となる、大物生大神御神像・財宝守護御神印授与奉告祭、並教主様壱千日謹行第三十一日目と併せて月始祈願祭が執り行われた。

家族会元事務局長増元照明さんも参列（9/27 第27日目）

此の度の教主様の壱千日の謹行は、平成三十三年五月二十七日に成満の日をお迎えになられます。なお、同月の三十日には、〝五千名の信奉者の前で開祖様の御教えを説かせて頂く〟との開祖様とのお約束をお守り致すべく、盛大にお祝いを申し上げさせて頂きます。

ご成満をご祈念申し上げますとともに、皆様は更なるお導きのご奉仕にお仕え願います。

**謹行・教座会に参列して、生きる智恵を授かり、人生の三大幸福に導かれましょう**

一、身体の健康
一、経済の安定
一、心の安心

## 秋の清掃奉仕

十月十四日午前九時より、秋晴れに恵まれた大國神社において、大神様の守護のもと、秋季立教例大祭前の秋の清掃奉仕が執り行われた。

心篤き信仰者が各分祠、教会から参集し、境内各所にて尊いご奉仕に汗を流した。

先ず、本殿において奉告祭を修め、記念撮影の後、男性は大幟旗を建て込み、女性は本宮周辺の草取りや直会の準備を奉仕した。

### 祈りと感謝と奉仕の実践

御本宮前にて記念撮影

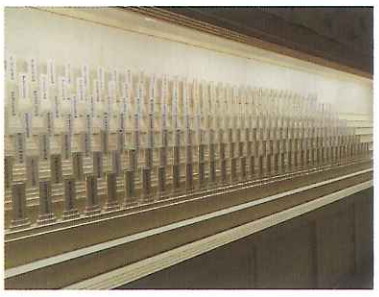
終了後の直会では、互いに労をねぎらいながら、秋の味覚が詰まった芋煮とおにぎりを頂いた。

ご奉仕頂いた、教信奉者の方々には心から感謝申し上げます。

**奉仕者御芳名**（順不同・敬称略）

内海　宏幸　渡邉　守和　横山　満也
伊藤　政代　鷲尾　雅子　横山　静江
俵　俊三　中川ハル子　中舘　夏翔
阿部　絵美　阿部　容子　木村　先子

## 荘厳に奉斎祀されし御霊璽



## 永代奉齋慰霊のご案内

大國神社祖霊殿では
教信奉者皆様の
先祖代々之霊
故人の御霊
関縁の御霊
を永代にお祀り申し上げさせて頂きます
幽冥主宰大國主大神様の
みちびきを拝し奉りて
霊界並御魂の修理固成を
お仕え奉るものです

面影を思ひ浮べて
つくづくと
逝きにし人を
偲ぶ今日かな
（祖霊景仰歌）

# 大和の光
# 開祖生誕百十一年
# 大和立教六十一年
# 靖國神社国民皆参拝を広めましょう
# 悩める人を救い天地に満つ

# 大和教団大國講名誉総裁 出雲大社教第五代管長 千家達彦先生三年祭斎行

九月二十四日、六根大行の二日目、本教団大國講名誉総裁・出雲大社教第五代管長であらせられた千家達彦先生がご帰幽、神上がりなされてより三年目にあたり、神上がられし午前十時四十六分に合わせて、統理様の「千家達彦先生神上がりて三年のこの日に哀悼の意を表し感謝の祈り、黙祷を捧げさせて頂きます。」との奉上により、参行者、教職員一同は、『千家達彦先生ありがとうございます。感謝申し上げます。』と幾度となく奉唱申し上げ感謝の祈りと黙祷が捧げられた。

斎主統理様による祝詞奏上

また、翌日の二十五日午前十一時三十分からは祖霊殿において、斎主統理様のもと三年祭が執り行われ、厳かに祝詞が奏上された。

結びに統理様は、「大國主大神様のお使い番としての千家達彦先生においては、開祖様の時代より、出雲大社との殊のほかの御神縁を深く頂き、この大國神社の御本殿の内陣にも出雲大社の神殿宇豆柱を突き固めた御石と御土を御神宝としてお祀り申し上げております。また、出雲大社教の御璽・御分霊も賜り、御神座にお祀りをさせて頂いております。そうした御神縁を賜りながら今日に至るわけでございます。」とのご教導を下された。

今後、千家達彦先生より賜りし御恩に叶うべく、善導救済をお誓い申し上げた。

## 大和三大行 中之行
# 六根大行

本年度の六根大行が九月二十三日、二十四日の両日に亘り大國神社と湯殿山神社にて行われた。

六根とは、眼、耳、鼻、舌、身、意であり人間が生きる上での大切な部分であるが、その六根の穢れを厳しき修行とともに祓い除け身魂を清々しく成すべくの尊き修行である。

初日、大國神社御本殿にて、始奉告祭を修め、参行者、代参行者、御霊行が言上げされた後、一同は湯殿山神社へ向かった。

本来であれば含満之滝にて滝行が行修される予定であったが、山形では連日の雨で水量が増しており、本年は慎ませて頂いた。

湯殿山神社での正式参拝を修め、暫し御神湯の足湯に浸かった後、参籠所に移動し、斎藤真由美教師先達による拝神行と、品川弓教師先達による慰霊祭が執行された。

続いて、統理様より修行における ご教導を頂き、「神拝詞」を紐解きながら修行における心構えと厳しさが諭された。殊に〝欲〟について説かれ、行により己の我欲を捨てることをご教授下された。

夕食の精進料理を頂いた後、それぞれ御神湯に浸かり、身体を温め就寝し、明くる日は午前一時に起床。各自身支度を整え、深夜の湯殿山神社御本殿へと向かった。

月光の中、大先達統理様のもと一同は只管に修行拝詞を奉唱し、自らの身魂を清めた。行修後、幣、比礼御清神事がなされ大國神社へと向かった。

御本宮前にて参行者一同で記念撮影

大國神社到着後、小休憩の後、境内で田中道敏教師先達による神庭踏神行を行い、大國神庭にて火祭拝神祈願行、浄霊行が執行された。一同は火の清めを受けながら、再び一心に自身と関縁の御霊の清めを行った。

引き続き大和の庭では、参行者が各自の信仰体験発表を行い、統理様の結びの講義を頂いた後、修了報告祭が執り行われ、統理様より一人ひとりに修了之証が授与された。

行修後、参集殿にて直会が行われ、一同は本教団の三大行の中之行である六根大行の行修に感謝の心を抱き、帰路へと着いた。

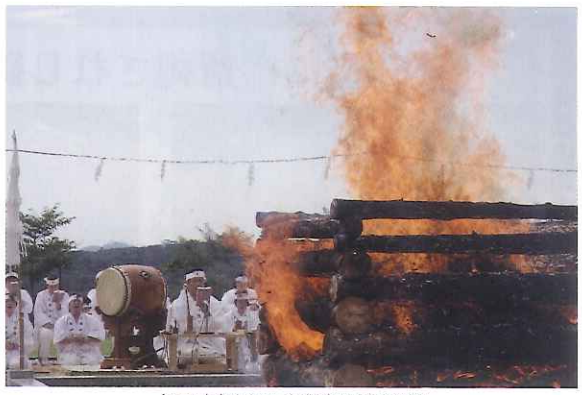
『六根大行に参行して』

板橋道場・小板橋　徹

九月二十三日から二十四日の行程で、初めての六根大行に参行させて頂きました。このような修行自体に参加するのも初めての体験でした。

自分は祖母の代から大和教団の信仰をしており、神様や御霊様のことは幼少から抵抗なく過ごしてきましたが、修行には少し抵抗があり、板橋道場でお世話になっている遠藤先生や萩原先生に参行するように勧められても断り続けてきました。

そのような自分が今回参行することを決意したのは、子供と家族の問題を何とか解決したいという想いからでした。今まで問題に対して、御祭やご供養など、板橋道場で出来る限りのことはさせて頂きましたが、八月の御祭の際に大山祇大神様より、『三大行に参行して己の心を鍛えるべし。湯殿で待っているぞ。』というお言葉を頂き、問題を解決するには修行をするしかないと腹をくくりました。


大國広場での火祭拝神祈願行

六根大行では滝行があるということで、不安の中にも楽しみにしている自分がいました。残念ながら滝行は叶いませんでしたが、湯殿山に着くと、御位を授かった蛇霊神や前世の行者さんが近くにいるのを感じました。真夜中の御神体前での拝神行では、星こそ見えませんでしたが、月明かりに照らされた雲が龍の形に見える時間がありました。大國神社に戻ってからも、境内地を巡拝したり、お祈りをしたりと、自分の中では今まで祈ったことがない長時間のお祈りでしたが、終わってみるとあっという間でした。皆さんと一緒に祈る事ができるか心配でしたが、子供と家族の為に祈りの時間は必死に祈らせて頂きました。まだ自分の中で何が変わったのか自覚はありませんが、それが感じられるくらいにこれからも出来る限りの修行をしていきたいと思います。

# 大國神社便り

大國神社は、紅葉が色鮮やかに美しく、境内は秋色に染まっております。

ご家族お揃いでご祈祷を受けられる

十月には例大祭を修め、十一月は七五三詣の時期を迎えます。

三歳児の髪置き、五歳男児の袴着、七歳女児の帯解きと夫々の儀礼があり、神社に詣で、大神様のご加護を賜りながらの健やかな成長をお祈り申し上げます。

お子様は晴れの着物を身に付け、ご家族の祝福を受けながら、秋晴れの境内で喜んでお祓いを受けられる光景は誠に微笑ましいものでございます。

お子様の健やかな成長とご家族の皆様の益々のご多幸を心よりご祈念申し上げます。

おめでとうございます。

（祭儀部次長　熊川 知長）

大和の庭ではグループに分かれて学び合った

最後に、行中にいろいろと心を掛けて下さいました大先達の統理様をはじめ、教職員の皆様、そして、お導き頂きました遠藤先生と萩原先生に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。